

報 道 発 表

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

令和 7 年 12 月 16 日 10 時 30 分
地 震 火 山 部

令和 7 年 12 月 8 日 23 時 15 分頃の青森県東方沖の地震について (第 10 報)

令和 7 年 12 月 8 日 23 時 15 分頃に発生した青森県東方沖を震源とする地震について、地震に関する概要や留意事項を別添のとおりお知らせいたします。

本件に関する問い合わせ先

(令和 7 年 12 月 8 日 23 時 15 分頃の青森県東方沖の地震について)

地震火山部 地震津波監視課

電話 03-3434-9041

(北海道・三陸沖後発地震注意情報について)

地震火山部 地震火山技術・調査課 大規模地震調査室

電話 03-3434-9040

地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	12月 8 日23時15分
発生時刻 (地震が発生した時刻)	12月 8 日23時15分
マグニチュード	7.5（暫定値；速報値の7.6から更新）
発生場所	青森県東方沖（八戸の東北東80km付近） 深さ 54km（暫定値；速報値 深さ約50kmから更新）
発震機構	西北西―東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
震度	【最大震度 6 強】青森県の八戸市(はちのへし)で震度 6 強を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度 6 弱～ 1 を観測
長周期地震動の観測状況	青森県三八上北で長周期地震動階級3を観測

防災上の留意事項と今後の見通し

（青森県東方沖の地震に関する防災上の留意事項）

- 青森県東方沖の地震活動は、12月8日の地震発生当初は活発でしたが、時間の経過とともに低下し、当該地域で12月8日の地震と同程度の地震が発生する可能性は、地震発生当初に比べ低くなりました。
- この3日間（12月13日から12月15日）で震度1以上を観測した地震は6回ですが、身体に感じない地震も含めると平常時より地震が多い状況が継続しており、現状程度の地震活動は当分続くと考えられます。
- 12月8日の地震で揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、復旧作業などを行う場合には、地震活動や降雨の状況に十分注意してください。
- 日本国内では、いつどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありませんので、日頃からの地震への備えを心がけてください。

防災上の留意事項と今後の見通し

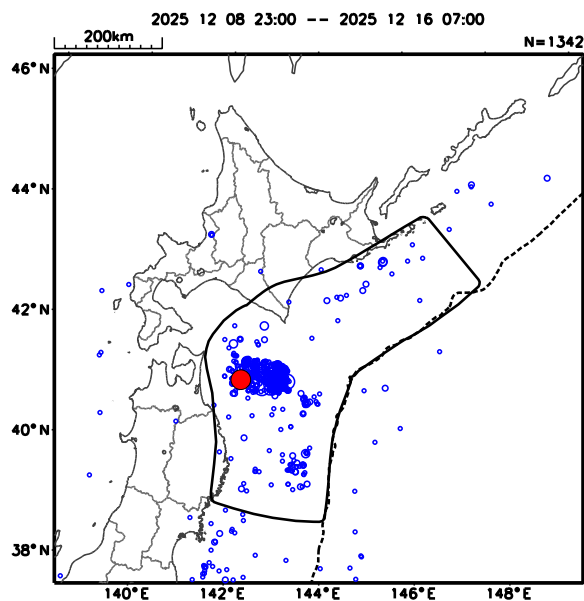
（北海道・三陸沖後発地震注意情報について）

- 12月8日23時15分頃の青森県東方沖を震源とする地震の発生後、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域では、新たに後発地震への注意を促す情報を発表する基準を満たす地震は発生していません。
- 12月8日23時15分頃の青森県東方沖を震源とする地震の発生から1週間経過したことから、本日（16日）00時をもって、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴う政府としての特別な注意を呼び掛ける期間は終了しました。
- 過去の世界的事例をみると、大規模地震の発生の可能性は、最初の地震（8日の地震）の発生直後ほど高く、時間の経過とともにその可能性が低下していく傾向がありますが、最初の地震から1週間以上経過した後に大規模地震が発生した事例もあります。
- 日本海溝・千島海溝沿いにおける地震・津波の発生履歴を見ると、12～13世紀、17世紀と、約3～4百年の間隔で最大規模の津波の発生が確認されており、17世紀の津波からの経過時間を考えると、最大規模の地震・津波の発生は切迫している状況にあると考えられています。
- また、地震調査研究推進本部地震調査委員会の長期評価によると、北海道東部に巨大な津波をもたらすような千島海溝沿いの超巨大地震については、今後30年以内の発生確率はⅢランク（高い）と評価されているほか、日本海溝・千島海溝沿いでは、他にも被害をもたらすような多数の海溝型地震について、今後30年以内の発生確率がⅢランク（高い）と評価されています。
- 日本海溝・千島海溝沿いでは、いつ大規模地震が発生してもおかしくないことに留意し、「日頃からの地震への備え」については、引き続き実施してください。

今回の地震活動

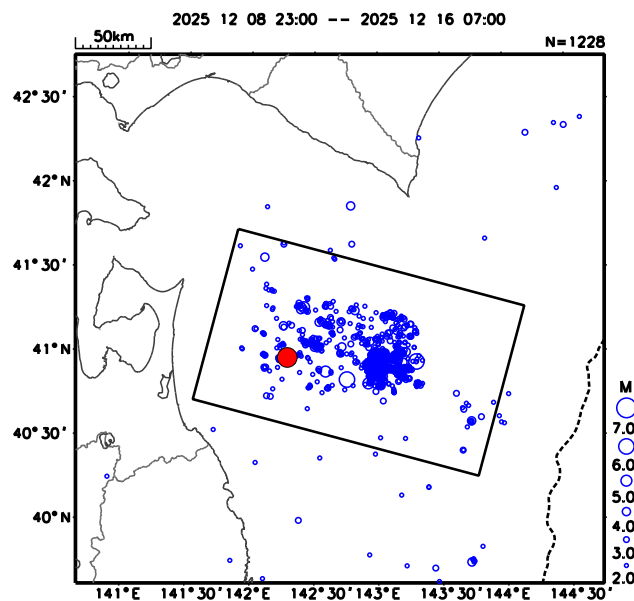
震央分布図（広域図）

深さ0 ~ 100 km M 2.0

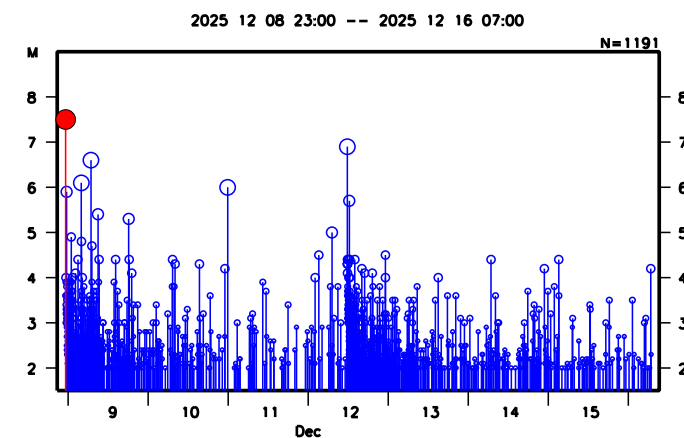


震央分布図（詳細図）

深さ0 ~ 100 km M 2.0



左図中の矩形領域内の地震活動経過図



（震源の色について）赤色：今回の地震 青色：今回の地震より後に発生した地震

- ・震央分布図中の点線は、海溝軸を示す
- ・震央分布図（広域図）の中の黒色の太線は、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域のうちの「日高・三陸沖」及び「十勝・根室沖」の領域を示す

<資料の利用上の留意点>

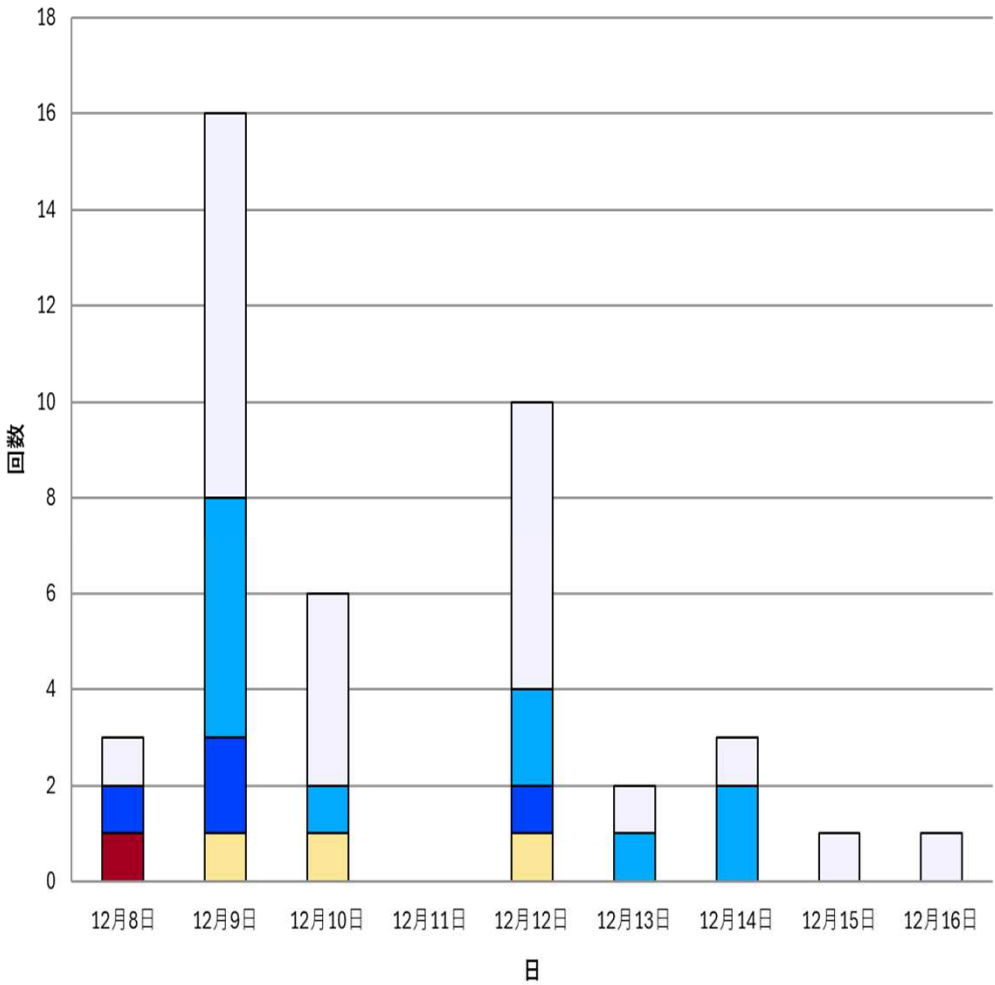
- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

震度1以上の地震の発生状況

【最大震度別・日時別地震回数表】
（12月8日23時～12月16日08時）

日別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
12/8 23時-24時	1	0	1	0	0	0	0	1	0		3	3
12/9 00時-24時	8	5	2	1	0	0	0	0	0		16	19
12/10 00時-24時	4	1	0	1	0	0	0	0	0		6	25
12/11 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	25
12/12 00時-24時	6	2	1	1	0	0	0	0	0		10	35
12/13 00時-24時	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	37
12/14 00時-24時	1	2	0	0	0	0	0	0	0		3	40
12/15 00時-24時	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	41
12/16 00時-01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
01時-02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
02時-03時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
03時-04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
04時-05時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
05時-06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	41
06時-07時	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	42
07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	42
総計	23	11	4	3	0	0	0	1	0			42

【日別地震回数図】

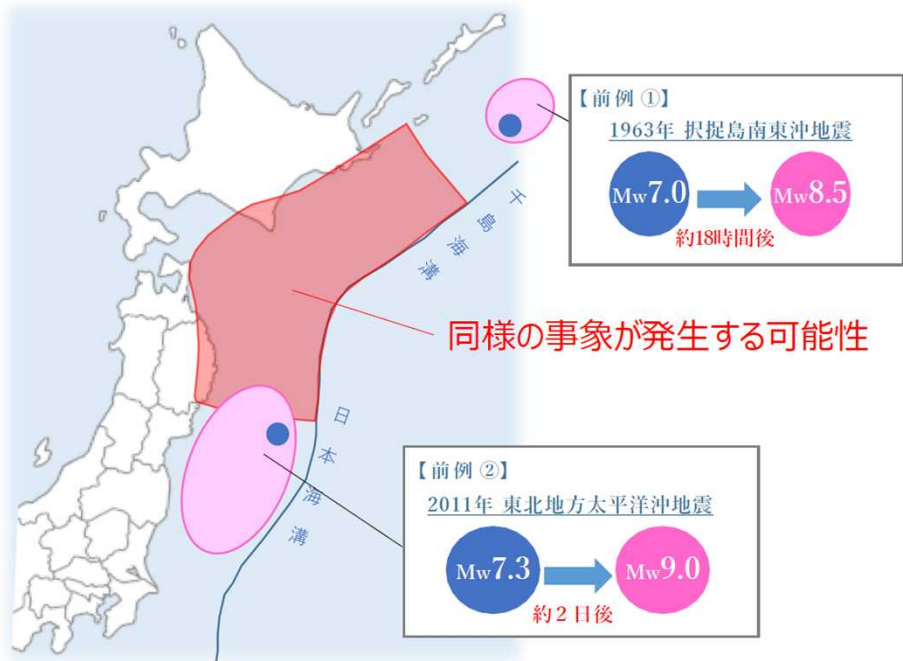


■7 ■6強 ■6弱 ■5強 ■5弱 ■4 ■3 ■2 □1

※掲載している地震回数は速報値であり、後日の調査で変更になることがある。

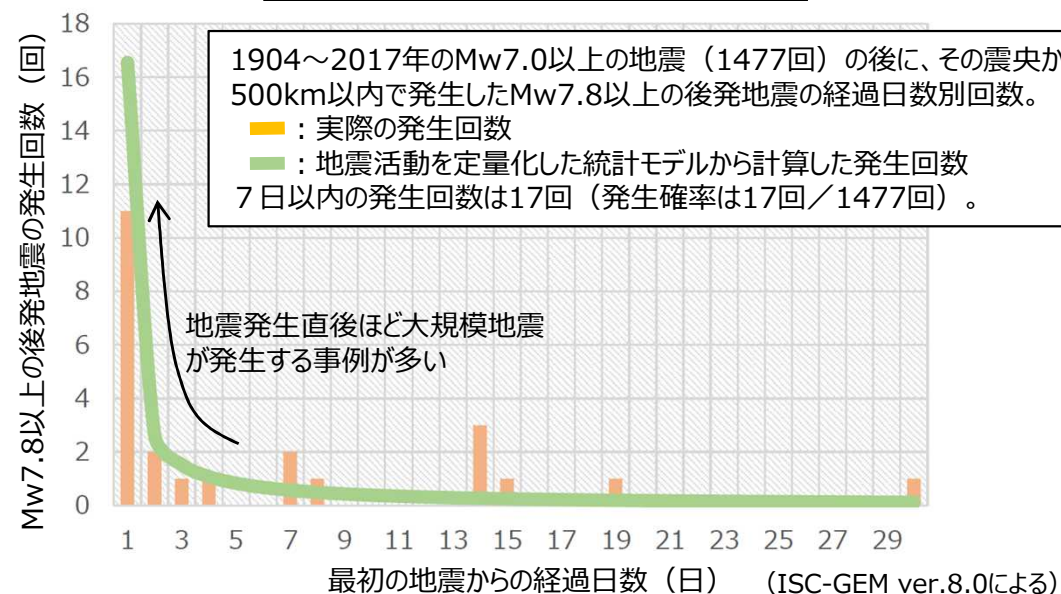
(参考) 地震が続けて発生した事例

日本海溝・千島海溝沿いの事例



- 2011年に三陸沖においてMw7.3の地震が発生した2日後にMw9.0の巨大地震（東北地方太平洋沖地震）が発生。
- 1963年に択捉島南東沖においてMw7.0の地震が発生した18時間後にMw8.5の地震が発生。

過去の世界の事例



- Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw 8クラス以上（Mw7.8以上）の大規模地震が発生するのは、百回に1回程度。

○「北海道・三陸沖後発地震注意情報」では、後発地震が実際に発生する確率は低いものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するために、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていることをお知らせします。

○後発地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。

(参考) 北海道・三陸沖後発地震注意情報について

<北海道・三陸沖後発地震注意情報とは>

- 日本海溝・千島海溝沿いの想定震源域で一定規模以上の地震が発生した場合等に、続けて大規模地震が発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まった場合に発表される情報
- 運用開始：令和4年12月
- これまでの発表履歴：1回

後発地震 注意情報 発表日	情報の種類	後発地震注意情報 発表のきっかけとなった現象		
		発生日	震央地名 (地震名称)	モーメント マグニ チュード
令和7年12月 9日 02時00分	北海道・三陸沖 後発地震 注意情報	令和7年 12月8日 23時15 分	青森県 東方沖	7.4

